

安全データシート

作成日 2010年7月15日

改訂日 2022年3月1日

1. 製品及び会社情報

| | | |
|--------------|-----------------|--|
| 製品の名称 | ゴムエース 主剤 | |
| 会社名 | アサヒボンド工業株式会社 | |
| 住所 | 東京都板橋区大谷口北町3-7 | |
| 担当部門 | 営業部 | |
| 電話番号 | 03-3972-4929 | |
| FAX番号 | 03-3972-4583 | |
| 推奨用途及び使用上の制限 | 内外ゴムシート用の接着に限る。 | |
| 整理番号 | 10811 | |

2. 危険有害性の要約

G H S 分類

| | | |
|-----------|------------------|----------|
| 物理化学的危険性 | 引火性液体 | 区分4 |
| 健康に対する有害性 | 急性毒性（経口） | 区分に該当しない |
| | 急性毒性（経皮） | 区分に該当しない |
| | 急性毒性（吸入） | 区分に該当しない |
| | 皮膚腐食性／刺激性 | 区分2 |
| | 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 | 区分2 |
| | 呼吸器感作性 | 分類できない |
| | 皮膚感作性 | 区分1 |
| | 生殖細胞変異原性 | 区分に該当しない |
| | 発がん性 | 分類できない |
| | 生殖毒性 | 区分に該当しない |
| | 誤えん有害性 | 分類できない |
| | 特定標的臓器毒性(単回ばく露) | 分類できない |
| | 特定標的臓器毒性(反復ばく露) | 分類できない |
| 環境に対する有害性 | 水生環境有害性 短期(急性) | 区分2 |
| | 水生環境有害性 長期(慢性) | 区分2 |
| | オゾン層への有害性 | 分類できない |

* 上記で記載がない危険有害成分は、区分に該当しないか分類できない。

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起後

警告

危険有害性情報

- (H227) 可燃性液体
- (H315) 皮膚刺激
- (H319) 強い眼刺激
- (P317) アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
- (H401) 水生生物に毒性
- (H411) 長期継続的影響によって水生生物に毒性

注意書き

【安全対策】

- (P210) 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
- (P280) 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
- (P264) 取扱い後はよく洗うこと。
- (P261) 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
- (P272) 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
- (P273) 環境への放出を避けること。

【応急措置】

- (P370+P378) 火災の場合：消火するために粉末消火剤、通常の泡消火剤を使用すること。
- (P302+P352) 皮膚に付着した場合：多量の水と石鹼で洗うこと。
- (P332+P313) 皮膚刺激が生じた場合：医師の診察/手当てを受けること。
- (P362+364) 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合は洗濯すること。
- (P305+P351+P338) 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズが容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- (P337+313) 眼の刺激が続き場合：医師の診察/手当てを受けること。
- (P333+P313) 皮膚刺激又は発しが生じた場合：医師の診察/手当を受けること。
- (P391) 漏出物を回収すること。

【保管】

- (P403) 換気の良い場所で保管すること。

【廃棄】

(P501) 内容物/容器の廃棄を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 混合物

化学品又は一般名 ビスフェノールA型液状エポキシ樹脂

危険有害成分

| 化学名又は一般名 | 濃度 (%) | CAS 番号 | 官報公示整理番号 |
|---------------------|--------|------------|----------|
| ビスフェノールA型エポキシ樹脂(液状) | 50~60 | 25068-38-6 | (7)-1279 |
| エポキシ化合物 | 15~20 | 記載あり | 既存 |
| キシレン樹脂 | 3~5 | 26139-75-3 | (7)-1572 |
| 炭酸カルシウム | 20~30 | 471-34-1 | (1)-122 |

4. 応急措置

| | |
|---|---|
| 吸入した場合 | 被災者を空気の新鮮な場所に移動させ、医師の診察/手当を受けること。呼吸が不規則になった場合又は停止した場合には人工呼吸を施すこと。 |
| 皮膚に付着した場合 | 汚染された衣類と靴を脱ぎ、直ちに多量の水と石鹼で洗い流すこと。皮膚の炎症やアレルギー性反応が起きた場合には、医師の診察を受けること。 |
| 眼に入った場合 | 直ちに多量の水で洗浄する。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師の診察/手当を受けること。 |
| 飲み込んだ場合 | 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。直ちに医師の診察/手当を受けること。 |
| 急性症状及び遅発性症状の最も重要な特徴症状 応急措置をする者の保護に必要な注意事項 医師に対する特別な注意事項 | アレルギー性皮膚反応を起こすおそれがある。 指定された個人保護具を使用すること。 症状に応じて治療すること。 |

5. 火災時の措置

適切な消火剤 粉末消火器、泡消火器、噴霧水、乾燥砂。

使ってはならない消火剤 棒状水は火災を拡大し危険な場合があるので使用しないこと。

火災時の特有の危険有害性 不完全燃焼及び熱分解により、一酸化炭素、二酸化炭素、各種の炭化水素、アルデヒド及び煤煙などの毒性ガスが発生するおそれがある。これらを閉鎖された空間内又は高濃度で吸入すると極めて

危険なおそれがある。

また成分の炭酸カルシウムは火災時に多量の炭酸ガスを放出し酸化カルシウムを生じる。

特有の消火方法

周辺火災の場合 移動不可能な場合、容器、梱包物及び周辺に散水し冷却する。

着火した場合 火元(燃焼源)を絶ち適切な消火剤を用いて風上から消火する。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置 周辺の火災消火作業には適切な空気呼吸器
防護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 人員を安全な区域に避難させること。

作業者は保護具を着用し、その区域を換気すること。

環境に対する注意事項 漏出物が河川、水路等公共水路に流れ込むのを防止する。残量物
は土、砂等に吸着させ密閉可能な容器に回収し後で廃棄処理をする。

封じ込め及び浄化の方法及び機材 砂、土、不燃吸収物質に吸収させて回収すること。

二次災害の防止策 付近の着火源となるものを速やかに取り除く。

漏出した場所の周辺には関係者以外の出入りを禁止する。

万一、河川公共水路等に流れ込んだ場合は直ちに地方自治体の公害
担当者に報告する。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 シャワー、洗眼器、換気システム。特に閉め切った場所では十分な
換気を確保し、保護具を着用する。

安全取扱い注意事項 眼、皮膚との接触を避けること。汚染された作業着は作業場から出
さないこと。環境への放出を避けること。

接触回避 データなし

衛生対策 取扱い後はよく洗うこと。

保管

安全な保管条件 直射日光を避け、通気のよい場所で容器を密閉し保管する。

安全な容器包装材料 鋼（スチール）製容器（缶、ドラムなど）

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度

| | |
|------------------|--|
| 日本産業衛生学会（2009年版） | 設定されていない。 |
| ACGIH（2007年版） | 設定されていない |
| 設備対策 | 貯蔵ないし取扱う作業場にはシャワーと洗眼器を設置する。 十分換気のある場所とすること。 |
| 保護具 | |
| 呼吸器の保護具 | 適切な呼吸器の保護具を着用すること。 |
| 手の保護具 | ゴム製の手袋などの適切な保護具手袋を着用すること。 |
| 眼、顔面の保護具 | 適切な眼の保護具を着用すること。 |
| 皮膚及び身体の保護具 | 適切な眼の保護衣を着用する。保護靴又は長靴。 |
| 衛生対策 | 取扱い後、手や顔をよく洗い、うがいをすること。汚染された作業着は作業場から出さない。 |
| 特別な注意事項 | 取扱い後は石鹼と水でよく洗うこと。作業着はその都度洗うこと。 |

9. 物理的及び化学的性質

| | |
|-----------------------|--|
| 物理状態、色 | グレー色ペースト状液 |
| 臭い | 僅かエーテル臭 |
| 融点/凝固点 | データなし |
| 沸点又は初留点及び沸騰範囲 | データなし |
| 可燃性 | 利用可能なデータなし |
| 爆発下限及び爆発上限界/可燃限界 | データなし |
| 引火点 | データなし、推定 90°C< |
| 自然発火点 | データなし |
| 分解温度 | データなし |
| p H | 不適、非水系である。 |
| 動粘性率 | データなし |
| 溶解度 | 成分は炭酸カルシウムを除いて芳香族炭化水素系溶剤、ケトン類の有機溶剤に可溶。 |
| 爆発範囲 | データなし |
| 蒸気圧 | データなし |
| n-オクタノール／水分配係数(log 値) | データなし、成分ビスフェノールA型液状エポキシ樹脂 2.82 |
| 密度及び/又は相対密度 | 1.30～1.35(23°C) |
| 粒子特性 | データなし |

10. 安定性及び反応性

| | |
|------------|------------------------------|
| 反応性 | 酸と混ざると炭酸ガスを発生しながら溶解する可能性がある。 |
| 化学的安定性 | 通常の取扱いにおいて安定である。 |
| 危険有害性反応可能性 | 自己反応性なし。通常の使用条件下では安定である。 |

| | |
|------------|--|
| 避けるべき条件 | 継続的高温状態(40°C以上) 高湿度、直射日光 |
| 混触危険物質 | 強アルカリ(強塩基)、強酸、酸化性物質(酸化剤)、エポキシ樹脂硬化剤 重合開始触媒 |
| 危険有害な分解生成物 | 一酸化炭素、低分子有機化合物(構造不明)、酸化カルシウム、 炭酸ガス。 |

1.1. 有害性情報

急性毒性

| | | |
|------------------|-------------------|--------------------------|
| 経口 | 区分に該当しない | |
| | ビスフェノールA型液状エポキシ樹脂 | ラット LD50 11,400mg/kg |
| | エポキシ化合物 | データなし |
| | キシレン樹脂 | ラット LD50 >2,000mg/kg |
| | 炭酸カルシウム | ラット LD50 6,450mg/kg |
| 経皮 | 区分に該当しない | |
| | ビスフェノールA型液状エポキシ樹脂 | マウス LD50 >1,270mg/kg |
| | エポキシ化合物 | データなし |
| | 炭酸カルシウム | 分類できない |
| 吸入 | 区分に該当しない | |
| | エポキシ化合物 | データなし |
| | 炭酸カルシウム | 分類できない |
| 皮膚腐食性/刺激性 | 区分 2 | |
| | ビスフェノールA型液状エポキシ樹脂 | 皮膚刺激 |
| | エポキシ化合物 | 皮膚刺激 |
| | キシレン樹脂 | 皮膚ウサギ P. I. I 0.8~0.9 軽度 |
| | 炭酸カルシウム | 分類できない |
| 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 | 区分 2 | |
| | ビスフェノールA型液状エポキシ樹脂 | 強い眼刺激 |
| | キシレン樹脂 | データなし |
| | 炭酸カルシウム | 分類できない |

呼吸器感作性又は皮膚感作性：呼吸器感作性；区分に該当しない

各成分データなし

皮膚感作性；区分 1

| | |
|-------------------|-------------------|
| ビスフェノールA型液状エポキシ樹脂 | アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ |
| エポキシ樹脂 | アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ |
| キシレン樹脂 | データなし |

| | | |
|-----------------|---------------------|--------|
| | 炭酸カルシウム | データなし |
| 生殖細胞変異原性 | 区分に該当しない | |
| | ビスフェノール A 型液状エポキシ樹脂 | データなし |
| | エポキシ樹脂 | データなし |
| | キシレン樹脂 | データなし |
| | 炭酸カルシウム | データなし |
| 発がん性 | 分類できない | |
| | ビスフェノール A 型液状エポキシ樹脂 | データなし |
| | エポキシ樹脂 | データなし |
| | 炭酸カルシウム | 分類できない |
| 生殖毒性 | 区分に該当しない | |
| | エポキシ樹脂 | データなし |
| | キシレン樹脂 | データなし |
| | 炭酸カルシウム | データなし |
| 誤えん有害性 | 分類できない | |
| | 炭酸カルシウム | データなし |
| 特定標的臓器毒性(単回ばく露) | 分類できない | |
| | エポキシ樹脂 | データなし |
| | 炭酸カルシウム | データなし |
| 特定標的臓器毒性(反復ばく露) | 分類できない | |
| | エポキシ樹脂 | データなし |
| | 炭酸カルシウム | データなし |

1.2. 環境影響情報

生態毒性

水性環境急性有害性 水生生物に毒性 (区分 2)

ビスフェノール A 型液状エポキシ樹脂

| | |
|-----|-----------------------------|
| 甲殻類 | オオミジンコ EC50 (48 時間) 1.7mg/L |
| 魚類 | LC50 (96 時間) >1,000mg/L |

水性環境慢性有害性 長期継続的影響によって水生生物に毒性(区分 2)

原料メーカーの詳細データなし。

| | | |
|---------|---------------------|---------------|
| 残留性・分解性 | ビスフェノール A 型液状エポキシ樹脂 | 難分解性 ; BOD 0% |
| | エポキシ樹脂 | データなし |
| | キシレン樹脂 | データなし |
| | 炭酸カルシウム | データなし |
| 生体蓄積性 | ビスフェノール A 型液状エポキシ樹脂 | データなし |
| | キシレン樹脂 | データなし |

| | | |
|-----------|---------------------------|-------|
| | 炭酸カルシウム | データなし |
| 土壌中の移動性 | ビスフェノール A 型液状エポキシ樹脂 | データなし |
| | エポキシ樹脂 | データなし |
| | 炭酸カルシウム | データなし |
| オゾン層への有害性 | 本成分はモントリオール議定書にリストされていない。 | |

1 3 . 廃棄上の注意

| | |
|----------|---|
| 残余廃棄物 | 廃棄前に可能なかぎり無害化、安定化の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。 |
| 汚染容器及び包装 | 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去する。 |

1 4 . 輸送上の注意

| | |
|-----------|---|
| 国連番号 | 3082 |
| 品名(国連輸送名) | 環境有害物質(液体) |
| 国連分類 | クラス 9 |
| 容器等級 | III |
| 海洋汚染物質 | 該当 |
| 国際規制 | 航空輸送は IATA、及び海上輸送は IMDG の規則に従う。 |
| 国内規制 | |
| 陸上輸送 | 消防法に従う。 |
| 海上輸送 | 船舶安全法に定められている運送方法に従う。 |
| 航空輸送 | 航空法に定められている運送方法に従う。 |
| 特別の安全対策 | 保護具、消火器を携帯する。容器の漏れのないことを確認し、落下、転倒、破損がないように積載し荷崩れ防止を確実に行う。 |

1 5 . 適用法令

| | |
|-------------------|---|
| 消防法 | 可燃性液体、危険物第 4 類第 3 石油類非水溶性 指定可燃物(ビスフェノール A 型液状エポキシ樹脂) |
| 労働安全衛生法 | |
| 名称等を通知すべき有害物 | 非該当 |
| 名称等を表示すべき有害物 | 非該当 |
| 毒物劇物取締法 | 非該当 |
| 化学物質管理促進法(PRTR 法) | 非該当 |
| 変異原性が陽性の物質 | ビスフェノール A 型液状エポキシ樹脂 (平成 9 年 12 月 24 日労働基準局長) |

通達 基発第 770 号の 2)

労働基準法

感作性物質の指定 ビスフェノール A 型液状エポキシ樹脂（平成 8 年 3 月 29 日労働基準局長

通達 基発第 182 号）

疾病化学物質の指定 ビスフェノール A 型液状エポキシ樹脂

（法第 75 条第 2 項、施行規則第 35 条・別表第 1 の 2 第 4 号 1・昭和
53 労告 36 号）

海洋汚染防止法 有害液体物質(X 類；ビスフェノール A 型液状エポキシ樹脂）

輸出貿易管理令 該当する（キャッヂオール規制対象品）

16. その他の情報

JAIA F☆☆☆☆（登録番号 005397）

参考文献

1) JIS Z 7253(2019) 日本規格協会

2) 安全データシートの作成指針 日本化学会業協会

3) 原料メーカー提供の製品安全データシート 各原料メーカー

記載内容は現時点での入手できる資料、情報、データにもとづいて作成しておりますが、含有量
物理化学的性質、危険・有害性等に関してはいかなる保障をなすものではありません。

また注意事項は通常の取扱いを対象にしたものなので、特殊な取扱いの場合には、用途、用法に
適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。